

編集後記

- ◇ 新たな年を迎え、読者の皆様のご多幸と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。例年、1月号では「いも類の新品種」について特集を組んで紹介することを恒例としてしており、今回は3品種について育成者に解説いただいた。サツマイモ基腐病やジャガイモシロシストセンチュウという非常にやっかいな病害虫に対する抵抗性を持つ品種が含まれており、実需者と生産者など関係者が協力して速やかな普及と活用が実現することを期待したい。
- ◇ 1月号からは従来の産地情報に加えて民間企業の取り組みを紹介することとし、新たに「産地・業界情報」として、焼きいもブームを支えている電気式焼きいも機を巡る業界の動向と紫サツマイモの機能性表示食品「肝ファイン」の開発経過を紹介している。今後も、このような業界情報を広くお伝えしていきたいと考えている。
- ◇ 昨年末、10月24日から28日までの1週間、例年どおり農水省の消費者の部屋で「さつまいも・じゃがいもの週」が開催され、生いもや加工品の展示を行って好評を得た。サンプルの提供に協力いただいた研究機関や企業の皆様には、この場をお借りして感謝申し上げます。
- ◇ 昨年の11月に静岡県西部地域で栽培されたサツマイモから、アリモドキゾウムシが確認された。国内での確認は鹿児島県と高知県に次いで三県目。サツマイモの世界的な大害虫であるが、その起源はインド亜大陸であり、歴史を遡ればサツマイモの伝播によって両者が遭遇して被害が世界に拡散したとのこと。今回の事案の背景には温暖化の影響も考えられるが、近年はヒトやモノの移動がグローバルになっていることから、不断のリスク管理が必要であろう。
- ◇ 本誌バックナンバーの記事閲覧システムであるが、昨年11月開催された第1回日本バレイショ研究会ではNo.56に収録した川上幸治郎先生の追悼記事が紹介された。また、NPOカラー芋ワールドセンターと東アジア唐芋友好協会から発行された書籍「唐芋は世界をつなぐ②」には、No.135、138、143に掲載した東アジア唐芋友好ワークショップのレポートが収録されている。本誌に寄稿いただいた内容は、いも類関係者にとって貴重な共有財産、アーカイブであることを改めて痛感した次第である。

いも類振興情報 第154号

2023(令和5)年1月15日発行

定価 1部 500円

年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303

TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp

郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社